

医療関係者や市民による 新病院建設検討委員会を

質問 市長は、平成33年に新市立病院の開院めざし、病院局内に来年1月「新市立病院建設準備室」を、4月に「新市立病院建設基本計画策定委員会」を設置することを表明されている。今、奥州市の医療環境、とりわけ産婦人科や小児科、脳外科などは深刻な状況にあり、老朽化した総合水沢病院の問題を含め、胆江地域の医療のあり方が問われている。しかし、合併後の市議会での総合水沢病院の財政赤字問題や「奥州市立病院・診療所改革プラン」をめぐる市民間の議論等を振り返ると、市民の中では、総合水沢病院の置き置き、新市立病院建設は



あらい かつお 議員(日本共産党)



建て替えが検討される総合水沢病院

「総論賛成」「各論異議あり」となるのではない。それ故、市民合意が得られる基本理念と手立てが大事であり、市長部局内に、市民や大学病院、地域の医療関係者などによる「新病院建設の基本構想・基本理念」等を検討する組織をつくるべきではないか。

市長 新市立病院建設は、市の医療機関の担うべき責任・役割を将来にわたって継続させるため、また総合水沢病院は、経年劣化が著しく耐震基準を満たしていない等から、必要な改修を行うには多額の費用を要し、建て替えが必要と判断した。多くの市民に合意いただける検討組織は、今後考えていく。

副市長の役割を明確に

質問 新病院の建設は100億円を超える巨大プロジェクトであり、市民の命にかかわる大事業に、市のNo.2の副市長がかかわるべきではないか。

市長 副市長の役割も明確にしてい

知恵を出し合い観光客誘致を

質問 交流人口を増やすには、観光客誘致も大事な要素。奥州市観光基本計画の見直しとは。

市長 来年度からの後期計画期間の開始にあわせ、必要な見直しを実施するもの。一つ目は、着地型観光や広域観光による誘客促進策の強化。二つ目は、胆沢ダムを活用した観光開発の強化。三つ目は、訪日外国人観光客の誘致促進、いわゆるインバウンド対応。見直し後の観光基本計画は、3月までにはお示しできるよう現在作業を進めている。

質問 水沢区の三偉人記念館の課題は。

教育委員長 建物の建築時期は高野長英記念館が昭和45年、斎藤實記念館が昭和50年、後藤新平記念館が昭和53年でいずれも建物や設備の老朽化が進んでおり、毎年必要に応じて修繕している状況で、なかでも空調設備等に故障が生じることも心配している。

残さず食べて食品ロスの削減を

質問 ごみの減量化にもつながる、食品ロス削減の取組みは。

市長 食品ロスとは、食べられるにも関わらず、廃棄された食品のことであり、その原因は皮のむき過ぎが最も大

きく、次いで食べ残し、そして賞味期限切れによる直接廃棄と言われている。市民の皆さんが、必要な量を、こまめに購入し、食べ切ることを気に留めていただければ、食品ロスの削減は進むものと考えられる。さらには、事業所から排出される食品ロスについても、商工団体を通じて、各事業所・飲食店などに、理解と削減に向けての協力を要請する。



民間における食品ロス削減の取組み



ふじた 慶則 議員(奥和会)